

ともに励まん



北海道旭川永嶺高等学校 3年次だより 第19号 (通巻114号)

2019, 8, 30 (金)

期末考査まであと4日

9月長月

9月を迎えます。早いものです。センター試験の願書を書く時期がやってきました。就職試験も「解禁」となります。来週には前期期末考査です。

9月1日は「二百十日」と呼ばれる日に当たります。立春から210日目。古来、この時期には台風が襲来する時期として、とくに米農家が出穂（しゅっすい。稲の穂が出る）の時期として注意してきた日ということだそうです。

その9月1日は、関東大震災が起きた日。1923（大正12）年のことです。96年前になるんですね。死者行方不明者は日本の地震史上最多の10万人（東日本大震災は2番目で2万2千人）。東京、横浜が灰燼（かいじん）に帰しました。その22年後には東京大空襲で、東京はもう一度焼け野原になってしまいます。前にも書いたと思いますが、大学時代の先生が関東大震災を経験しておられ、その時のようすを聞いたことがあります。9月1日はその後「防災の日」と定められました。

しかし、地震はその後も日本列島を襲いました。この半世紀ばかりの間でも十勝沖、日本海中部、北海道南西沖、阪神淡路、新潟中越、東日本、熊本、胆振東部ほか、数え切れない多くの大規模地震に見舞われています。

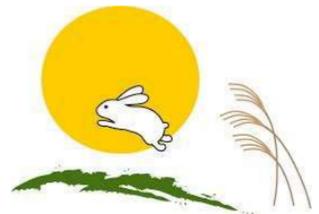
台風、竜巻、大水、津波、噴火、ほんとうに自然災害の多い昨今です。平安末期にも災害が相次ぎ、飢饉に見舞われ、働き手が減少し、流通が滞った結果、京の都に餓死者が続出した惨状が『方丈記』に描かれています。『羅生門』の世界です。

9月の異名は「長月」。『枕草子』には「九月ばかり」の章段があり、『徒然草』には「九月二十日の頃」という章段が残されています。（これで古典三大随筆がそろったね！）

今年の「十五夜」は9月13日（金）。旧暦の8月15日です。

最後の全校的行事、体育大会もおわりました。ぎりぎり天気にも味方され、昨年度とは打って変わってさまざまな行事がほとんど実施されたことはたいへんにありがたいことでした。生徒会、体育委員会、各部活、ご苦労様でした。各クラスの放課後、疲れと余韻に浸っている姿が印象的でした。

気候的にも過ごしやすくなり、落ち着いて勉強に打ち込める季節となりました。がんばりましょう！



ツキの10箇条

- 1 小言・愚痴を言わない
- 2 人の悪口を言わない
- 3 身の回りの整理整頓をする
- 4 人と争わない
- 5 早寝早起きをする
- 6 いいと思ったことは、すぐ実行する
- 7 感謝し、「ありがとう」と言う
- 8 笑顔に努める
- 9 自分にとって損だと思われることをする
- 10 ショートカットをしない

「ツキ」は呼べる(?)

さきごろ読んだ本の著者は自分自身の修養に努めているのだそうですが、こんなことを書いています。職場に着いたらクルマは駐車場の奥から停める。後から来る人（家庭の事情でぎりぎりにしか出勤できない職員や、外部から来訪されるお客様）用に、玄関に近いところは空けておこうということらしいのですが、なかなかまねはできません。

さらに、運を呼ぶ、著者独自の「ツキの10箇条」というのが目にとまったので、紹介しましょう。これも自身の修養の一環で、こうした事柄に努めることによって、運勢の好転、ツキを呼び寄せるといったことのようにです。できれば、まねをしたいことばかりですが、これがまたなかなかできないんだねえ・・・人間だもの(?)

なぜ「増税」か？

9月に入るとおそらく、翌月からの消費増税を控えて、いろいろな情報がかまびすしくなるだろうと思われます。わずかながらでも「買いため」をして家計の節約に努めるという話も聞くでしょう。クニの財政は、「社会保障費」の増大で消費増税でも追いつかないらしい。そんな中、廉価な医薬品（うがい薬や湿布薬、アレルギーの塗り薬など）は医療保険の適用外にすることを検討しているのだとか。それは「団塊の世代」が後期高齢者となり、医療費の本人負担が3割→1割に減るため、クニの負担が増えることからなんだそう。そして、年金支給額も30年後には2割減というニュースも。少子高齢化の厳しい現実。いやはやなんだかなあ、という時代になってきたものです。

書いてみる5 髪 ～あたま太っています

教員になりたての頃、「ドライヤーのかけ過ぎで髪の毛の色が赤くなって」という生徒の釈明を聞き、そんなものなのかなあ、と思っていました。でも、自分も何十年とドライヤーを使ってきてみてちっとも赤くならないので、ドライヤーで髪の毛が赤くなるというのは本当だったのかなあ、と思います。確かに髪の毛や肌、目などの色は人種により個人により千差万別であって、ドライヤーの影響も受ける人、受けない人がいるのかも知れない。毎日洗髪をしないとべたつく髪もあれば、2, 3日洗わなくてもさらっとしている髪質の人もある。もともと茶色ぎみの髪の人であれば、癖毛の人もあります。そんな人にまで「黒染め」「縮毛矯正」を求める学校もあると聞きます。頭髪指導というのはどこの学校でも行われているけれど、いろんな点で、奥深い仕事ではないだろうか。



さて、中学は丸刈りだったボクは、高校生になって髪を伸ばしているとき、床屋のおじさんに、ボクに似合う髪型にしてくれとたのんだところ、「おまえは土台が悪いからどんな髪型してもだめだわ」と言われました。土台。つまり顔なんだろう。そりゃあ確かにそうかも知れないけれど、多感な高校生に向かってそこまで率直に言うなんて。おかげでその一言は、いまでも忘れられずにいる。言った本人はそんなこと忘れてしまっただろうし、すでに彼岸の人。反対に、言われた方は、相手が死んでも忘れられない。ああ、一言の重みって恐ろしい。いままで生徒に言ってきた言葉の中で、イヤな思いをさせたことはなかったか、いや、たぶんあるんだろう（反語）と考えるとぞっとします。

そうそう、自分の髪の毛について人から言われたもう一つのエピソード。それは、最近のこと。たまたま急ぎの予定があつていつもの床屋に行く時間が無く、とあるスーパーに入っている「1,000円カット」にかかったところ、おばさん理容師からこんな一言を賜りました。

「お客さん、あたま太ってるから、ここのところの髪の毛、うまく整わないわ」。

なんと、半世紀以上生きてきて、「頭が太っている」という形容は初めて聞いた。もしかして高校生の頃、あの床屋のおじさんも、ボクの「頭が太っている」から、似合う髪型はない、と断言したもうたのであろうか？ しかし、「頭が太っている」って、いったいどんな形状なんだろう？ 頭の形が丸いとか、細長いとかというのはわかるけれど。そういう人って、見たことないよな……。いや、「ボクも言われたことがあります」という人がいたら、ぜひ教えて下さい。でも、「頭が太っている」おかげでたいして抜けもせず白髪にもならずにいるのかも知れない、そう考えると、おばさんの発見にも感謝しなければと思う次第。髪の毛というのは、つくづく奥が深い。



三浦綾子記念文学館に行ってきた

昨年10月にも書きましたが、旭川には立派な個人の文学館が2館あります。井上靖と三浦綾子です。

井上靖記念館は市営の文学館で、市の広報誌『あさひかわ』にも毎月の行事が掲載されています。一方、三浦綾子記念文学館の方は、民設民営ですが、その運営や活動はじつに精力的で魅力的です。それだけ全国に（否、国際的にも）ファンが多い証なのでしょ。

新聞局の地区大会のプログラムの中で、三浦綾子記念文学館に行ってきました。かれこれ20回以上は訪問していますが、毎回「進化しているなあ」と感じます。事実、学芸員さんも常に進化を図っているというようなことをおっしゃっていました。以前、国語便覧を出している出版社数社に、質問状を出したことがあります。井上靖は生まれて1年も経たずに旭川を離れているのに「旭川出身の作家」と紹介されているのに対し、一生涯、旭川で作家活動をされた三浦綾子さんがどうして地元出身の作家として紹介されていないのか、という質問でした。前向きな回答をくれた出版社もありましたが、けんもほろろな出版社もありました。

みなさんにはぜひ、三浦さんの作品も読んでほしい。『氷点』『塩狩峠』『泥流地帯』はぜひとも。そして、両文学館にもぜひ足を運んでほしい。（井上靖記念館＝高校生100円。三浦綾子記念文学館＝高校生無料）

☆☆☆ 行事と時間割 ☆☆☆

長月 9月	行事等 ①②は校時を、(1)(2)は回数をあらわします	★時間割を確認しよう						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	日 防災の日（関東大震災 96年）							
2	月 6時間							
3	火 期末考査(1) 4時間							
4	水 期末考査(2) 4時間							
5	木 期末考査(3) 4時間							
6	金 期末考査(4) ④センター試験説明会 午後、室工・北見工大推薦希望者学習会 4時間							
7	土							
8	日							
9	月 秋期講習開始（～11 / 15） 6時間							